

財務ハイライト

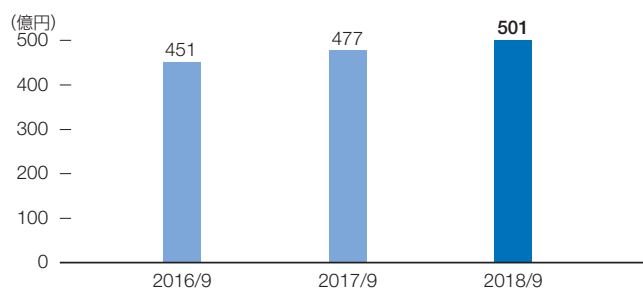
2018年度 中間決算の ポイント (連結)

- マイナス金利が続く厳しい環境のなか、積極的なリスクテイクによる貸出金の増加や非金利収益増強に取り組んだほか、株式等売却益の増加を主に、経常収益は前年同期と比較して24億円の増収となりました。
- 経常費用は、米国債の売却損の増加や貸倒引当金の算出方法を一部改定し将来に備えたことによる与信費用の増加などから、前年同期比32億円増加しました。
- その結果、経常利益は前年同期比8億円減益の96億円となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は、連結子会社の利益の積み上げもあり、66億円と前年同期比6億円の減益(経常利益の8億円減益に対し2億円改善)となっています。

利益の状況 (連結)

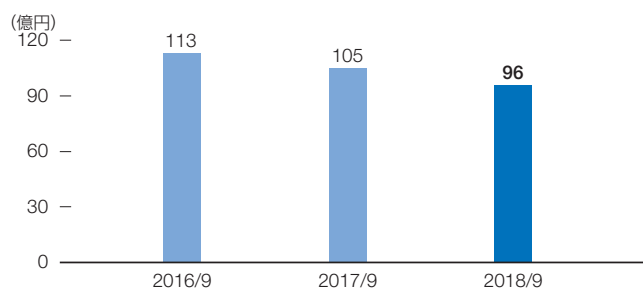
経常収益

501 億円
(前年同期比 24億円増加)



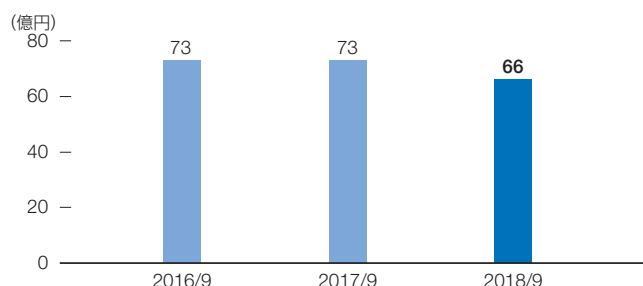
経常利益

96 億円
(前年同期比 8億円減少)



親会社株主に 帰属する中間純利益

66 億円
(前年同期比 6億円減少)

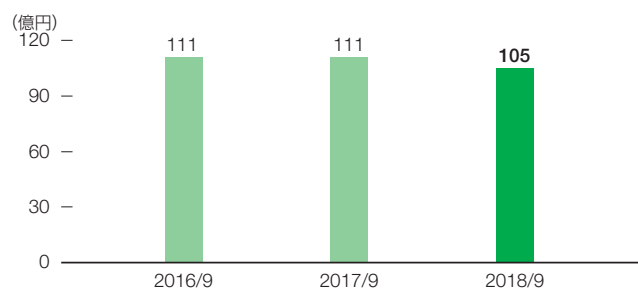


利益の状況 (単体)

コア業務純益

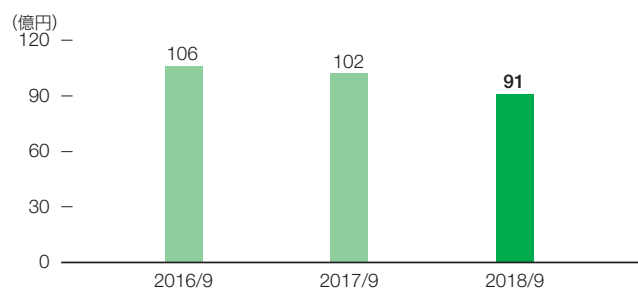
(本業における純粋な利益)

105 億円
(前年同期比 6億円減少)



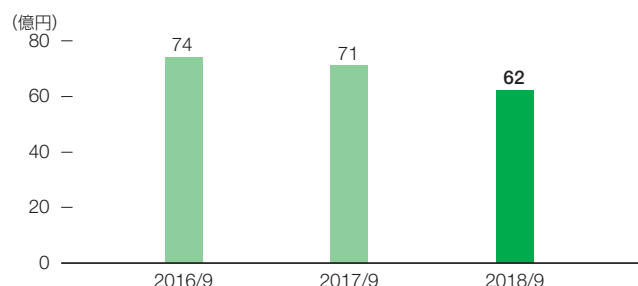
経常利益

91 億円
(前年同期比 10億円減少)



中間純利益

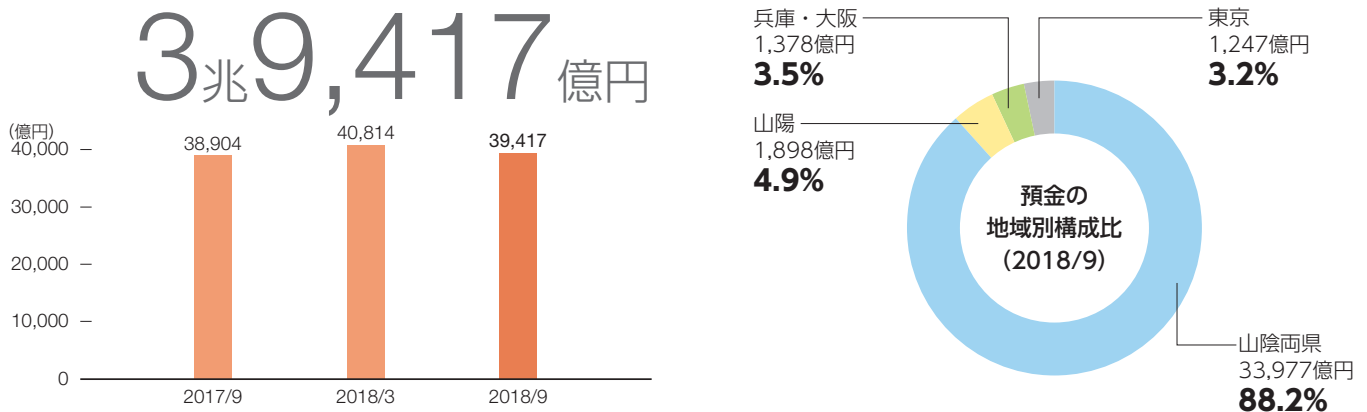
62 億円
(前年同期比 9億円減少)



主要勘定の状況 (単体)

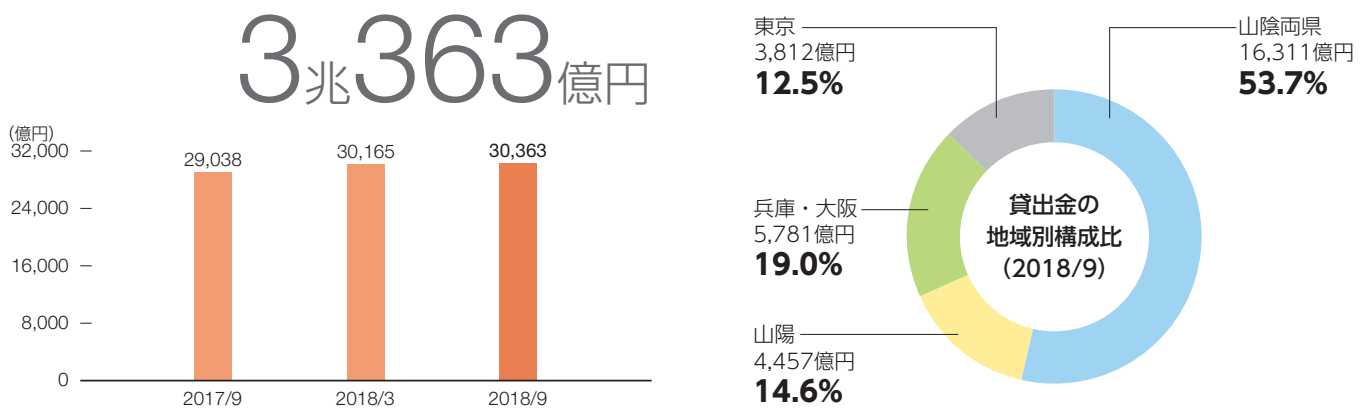
預金等* (期末残高) ※ 預金+譲渡性預金

個人預金が増加する一方で、法人預金のほか公金預金及び金融機関預金が減少しましたが、譲渡性預金は順調に推移し、預金等では前期末比1,397億円減少の3兆9,417億円となりました。



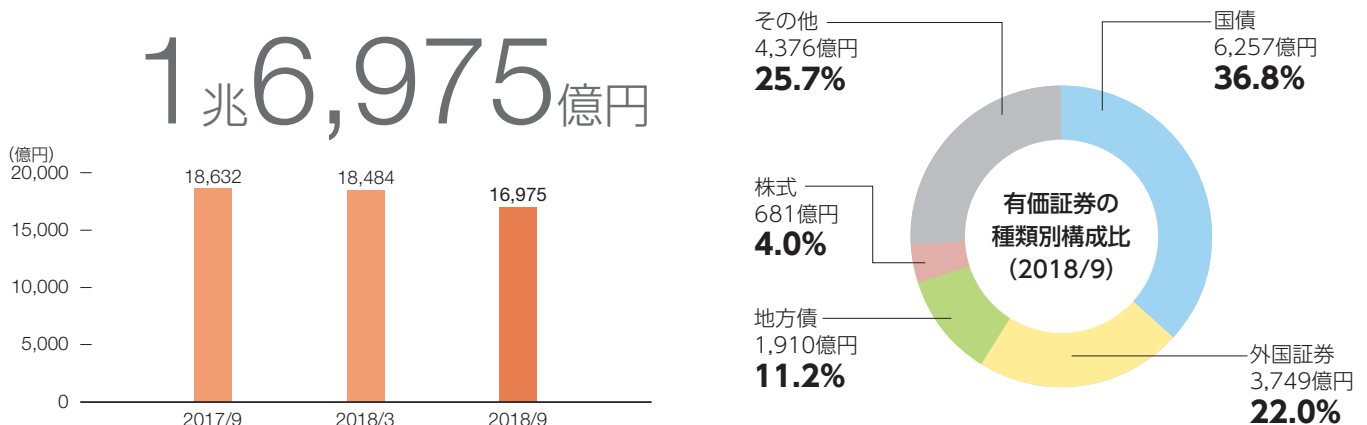
貸出金 (期末残高)

山陰両県を中心に住宅ローンなどの個人向け貸出が増加したほか、兵庫・大阪地区などで法人向け貸出が増加したことなどから、前期末比197億円増加の3兆363億円となりました。



有価証券 (期末残高)

日本国債への再投資が難しいなかで、投資信託や外国証券等への投資を機動的に行った結果、前期末比1,508億円減少の1兆6,975億円となりました。



財務ハイライト

安全性・健全性の状況

自己資本比率

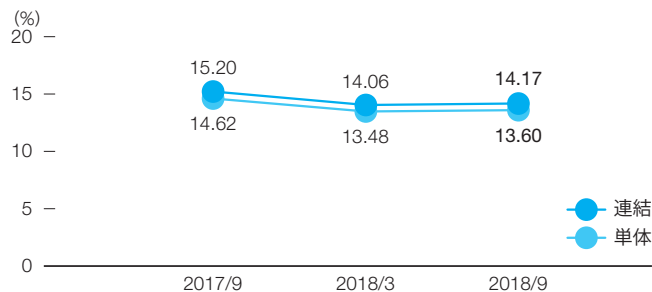
単体ベース
(国内基準) **13.60%**

自己資本比率は、引き続き高い水準を確保しています。

● 自己資本比率

銀行の健全性を測る代表的な指標の一つです。

国内基準は4%以上を維持することが求められています。



格付(単体):格付機関から安全性に高い評価

A2 (長期預金格付)

ムーディーズ・ジャパン(株) (Moody's)

A+ (発行体格付)

(株)格付投資情報センター(R&I)

AA- (長期発行体格付)

(株)日本格付研究所(JCR)

当行はムーディーズ・ジャパン(株) (Moody's)から長期預金格付「A2」を、(株)格付投資情報センター(R&I)から発行体格付「A+」を、(株)日本格付研究所(JCR)から長期発行体格付「AA-」の高い格付をそれぞれ取得しています。

●格付

企業の信用度や安全性を示す代表的な指標で、預金や債券などの元利金が約定どおりに支払われるかどうかを公正な第三者機関が客観的に評価し、その程度を簡単な記号で表したものです。